長岡中央綜合病院　倫理委員会　オプトアウト書式

①　研究課題名	胆嚢穿孔の 10 例
②　対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者　北見智恵	
2000 年から 2022 年の胆嚢穿孔症例 10 例	
③概要	
【はじめに】胆嚢穿孔は比較的まれな疾患で，胆石，胆嚢炎が原因であることが多いが，無石胆嚢炎や特発性胆嚢穿孔の場合，特徴的な症状，検査所見を示さないこともあり，確定診断が難しいこともある．胆嚢穿孔は胆汁性腹膜炎を併発して重篤な経過をたどることが多く，正確に診断し，早期治療介入が重要である．【対象と方法】2000 年-2022 年で当院で胆石，胆嚢炎で胆嚢摘出された症例は 1672 例で，胆嚢穿孔は 10 例に認めた．当科で手術を施行した胆嚢穿孔 10 例を対象とし臨床的病理学的に検討した。【結果】年齢の中央値 80 歳(55-85)，男性 6 人，女性 4 人，診断経緯は腹痛 9 例，発熱 1 例，主な併存疾患は高血圧 2 例，心疾患 1 例，糖尿病 1 例，脳梗塞 1 例であった．CT で胆嚢壁の一部途絶，肝周囲の腹水を 7 例，気腫性胆嚢店，肝周囲の腹水を 3 例に認め，全例術前本症と診断した．重症度分類は全例 GradeII，Niemeier 分類は TypeI1 例，TypeII 2 例，TypeIII6 例であった．先行部位は体部 3 例，底部 7 例，手術は腹腔鏡 4 例，開腹 6 例であった．結石は 7 例に認めた．術後 Clavien-Dindo 分類 GradeIIIa の腹腔内膿瘍を 2 例に認めた．術後入院期間の中央値は 16 日（6-54）であった．【考察】CT で胆嚢壁の一部途絶，肝周囲の腹水は本疾患に特徴的な所見であり，全例術前診断可能であった．胆嚢の支配血流が末梢になる体底部ほど粗となり，虚血に陥りやすいことから穿孔の好発部位は体部から底部と言われており，本検討でも同様の結果であった．高齢者が多いが，本疾患を確実に診断し，迅速に手術を行えば予後は良好であると考えられた.	
④申請番号	
⑤研究の目的・意義	当院における胆嚢穿孔例の臨床病理学的特徴を明らかにする.
⑥研究期間	2000 年から 2022 年 11 月まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	日本消化器外科学会ホームページ
⑧利用または提供する情報の項目	血液　画像　病理　臨床記録
⑨利用の範囲	長岡中央綜合病院外科部長　北見智恵
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	長岡中央綜合病院外科部長　北見智恵
⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	長岡中央綜合病院　外科　北見智恵 〒940-8653 新潟県長岡市川崎町 2041 番地 TEL 0258-35-3700　FAX 0258-33-9596